広報
ふじかわ

9月号　昭和59年9月20日発行　No.278

町のメモ

昭和59年9月1日現在	
人口	17,002人
増減	＋6人
男	8,358人
女	8,644人
世帯数	4,384人
面積	31.09㎢

富士川町　総務課

「木島区投げ松明」（深沢　勇さん撮影）

町のことしの目標
「笑顔であいさつ明るい町に」

おもな内容

2～3ページ	総合計画審議会が発足、第1回ふれあい広場
4～5	町のわだい、木島区投げたいまつが盛大に
6～7	広報デイスカッション
8～9	ママさん記者が取材中「辛夷学級」社会教育の課題、ふるさと探訪、まちの指定文化財
10	戸籍の窓、一里塚、俳句会

各区のことしの目標

ふれあいの輪に入りましょう　（宮町）
笑顔であいさつ自分から　（小池）
先にあいさつ私から　（大楽窪）
出会ったらおはよう　（本通一区）
出会ったらあいさつ　（本通四）
ルールを守り社会を正しく　（東町二）

第二次総合計画策定にあたり重要な役割をはたす

「総合計画審議会」が発足

来るべき21世紀を展望し、昭和61年から70年までの10年間、富士川町が進むべき方針や施策の大綱を定め、これを具体化し、実現するために、現在、富士川町総合計画づくりが進められています。

この計画の策定にあたり重要な役割りをはたす「総合計画審議会」が、8月10日開催され、常葉町長から34名の委員に委嘱書が交付された後、簑武司氏が会長に、久保田為雄氏が副会長に選ばれました。

総合計画審議会設置にあたり

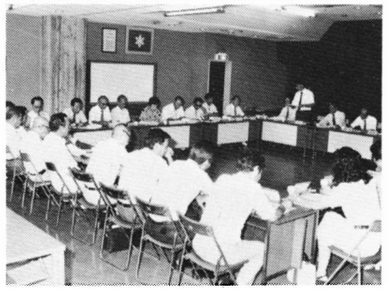
常葉雅文町長

現在、昭和70年を目標とした富士川町第二次総合計画の策定作業にとりかかっていることは町民のみなさんが、すでにご存知のことと思います。この計画は21世紀を展望し、将来のまちのあるべき姿を構想し、これを具体化していくものとして、基本となるべき重要なものであります。

6月には、満20歳以上の町民のみなさん五百人を無作為抽出させていただき、住民意識調査を実施しましたところ、回収率99、5パーセント、四百九十五人のみなさんからご回答をいただきました。町の将来に強い関心を示されたこの貴重なご意見を尊重し、この計画づくりに反映させていただきたいと思っております。

この調査結果は、近々、みなさんにご報告していきたいと思っております。

このたび、富士川町総合計画審議会が設置されるにあたり、町民の各層より参加される34名の委員のみなさんには、私たちのまちが、将来とも緑と清流をもち、明るく住みよい町づくりをなしうるために、広い視野と、それぞれの経験をもとに、この計画が活力に満ち、みのりあるものとするために、審議を尽くされ、ご意見をいただきたく希望するものであります。



第一回審議会の開催風景

総合計画審議会とは——

町の総合計画を策定するにあたり大切な役割をはたしていく総合計画審議会は、町長の諮問に応じ、この計画に関する重要な事項について調査・審議をする会で、町議会の議員、各種団体の役員、学識経験者など四十人以内で構成されることが、町条例によって決められています。

審議会委員氏名

（敬称略）

◎第一部会（生活環境）

◇望月　好猶（大北町）　◇若月　幸江（宮町）　◇久保田敏男（清水町）　◇望月　初男（旭町）　◇久保田為雄（旭町）　◇岩崎袈裟治（大楽窪）　◇遠藤和美（新町）　◇天野恵美子（舟山町）　◇田村　和彦（清水町）

◎第二部会（福祉・教育文化）

◇法月　寿作（南町二）　◇久保田幸男（相生町）　◇秀村　敏朗（侭下町）　◇金指　恭三（本通三）　◇篠田　彌天（相生町）　◇清水　俊信（富士見町）　◇太田芙美子（旭町）　◇望月　富子（八幡町）　◇川村　清（相生町）

◎第三部会（都市機能・産業振興）

◇芦川　清司（木島）　◇小永井一雄（本通三）　◇斎藤　久男（東町一）　◇谷津倉諄吉（室野）　◇佐藤　久幸（木島）　◇雨宮　正（坂下）　◇市川　忠良（南町一）　◇田辺　輝真（南町一）　◇斎藤　万理（新町）　◇小林　正子（幸町）

◎第四部会（行財政）

◇望月　貞彦（坂下）　◇滝　利雄（舟山町）　◇加藤　望（新町）　◇中川　晴二（小池）　◇斎藤己未郎（上町）　◇簑　武司（川坂）

はじめてのこころみ大成功!!

「第一回ふれあい広場」

あすをになう青少年の非行防止をはかるとともに、子どもとお年寄りなどのふれあいを深める広場をつくることを目的に、はじめてのこころみとして「ふれあい広場」が、8月26日(日)老人福祉センターの構内で開かれました。

広場では、子ども会育成会・指導者協議会、手をつなぐ親の会、日赤奉仕団などの即売店や模擬店、老人クラブ連合会のわらぞうり作りの実演・即売、太田利三さんの子どもたちの似顔絵描き、お年寄りと子どもの輪なげ大会、うなぎのつかみどりなどが行われ、ステージでは、宇多利母親クラブによる大紙芝居や一里塚母親クラブによる指人形などが行われました。また、福祉センターの二階では、サリドマイド児を描いた「典子は今」などが上映され、鑑賞者に感銘をあたえました。

同広場を訪れた人は約千三百人にのぼり、一日中子どもづれの親子などでいっぱいでした。

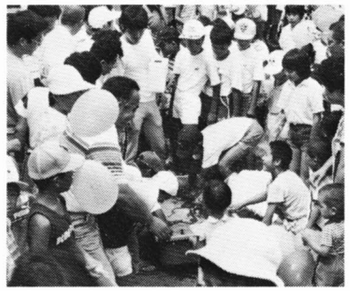
当日、子どもづれで訪れたお母さんは「はじめてなのでどういうものが行われるか、子どもが楽しみにしていましたので一緒にきて、各種団体の模擬店やステージの催しなど楽しく過ごさせていただきました。このように盛大にやっていくのはなかなか大変だと思いますが、来年もぜひ行ってほしいと思います」と話していました。

また、主催者の社会福祉協議会事務局では「昨年の10月に福祉協議会が法制化されたことを記念し、みなさんの協力で、はじめてこの広場を開催することができました。ある程度目的は達成されたと思いますが、今後より多くの人に参加してもらうために、内容、時期などの見直しをはかり更に充実したものにしていきたい」と話していました。

当日参加した次のみなさんから売上金の一部七万八千百九十六円が、福祉協議会に寄付されました。(9月6日現在・敬称略)

日赤奉仕団、更生保護婦人会、母子寡婦福祉会、みなみ・宇多利・一里塚母親クラブ、子ども会、老人クラブ、身障福祉会、手をつなぐ親の会、渡辺貴美子(新町)、平和建設（設備寄付）

一日中参加者でいっぱいだった広場



うまくうなぎがとれたかな

バイパス建設の早期実現を目ざし

標語決まる!

「バイパス建設促進期成同盟」で

松野地区県道バイパス建設促進期成同盟（斉藤或会長・会員1408世帯）では、6月から7月にかけて、松野地区の小・中学生や一般を対象に、バイパス促進の標語募集を行いました。

この募集は、松野地区を通る県道富士川身延線の交通公害を解消するために、地域が一丸となってバイパスの早期実現を目ざすことなどを目的として行われました。

その結果、百十人から二百七十八(小学生—百九、中学生—百三十四、一般—三十五)の標語が寄せられ、審査の結果、次の優秀な作品五つを立看板などにして、バイパス促進の気運を高めていくことになりました。

○バイパスは我ため　子のため孫のため

○またれるバイパス夢みて十年　お願いします早く造って

○バイパスを　バイパスは心と心をつなぐ道

○バイパスをつくってすみよい　小車の里

名誉町民　野間省一氏逝去

野間省一氏(73)　東京在住

名誉町民の野間省一氏が、去る8月10日逝去されました。

同氏は、戦後六・三制の教育改革による町立第一中学校の校地約二万三千平方メートルの無償寄付をはじめ、戦時中の食糧危機に際しては、開墾地を解放し町に協力するなど、町の発展に大変尽されてきました。また、昭和24年に講談社の社長に就任して以来、三十数年に亘り日本の出版会で指導的役割をはたし多くの業績を残してきました。

町では、同氏の長年の援助や功績に対し、昭和45年名誉町民の称号を贈りました。

郷土の発展に大きく貢献された同氏の功績をたたえ、謹んで心からごめい福をお祈りします。

町の

おじいちゃん・おばあちゃん いつまでもお元気で

町では、明治・大正・昭和と三代にわたって町の発展につくされてきた、お年寄りの長寿と健康をお祝いするとともに、今後も今日までつちかってきた知識や経験などを社会に役立てていただこうと、9月14日(金)、第一小学校・第二中学校体育館で敬老会を開きました。

当日の演芸大会では、漫談、奇術、漫才、浪曲などがおこなわれ、両会場ともお年寄りの元気な笑声でいっぱいでした。

また、9月6日(木)には、最高齢者の小林たみさんをはじめ、90歳以上のお年寄十九人のお宅を常葉町長が訪問し、長寿をお祝いするとともに記念品を贈りました。

ちなみに、町の70歳以上のお年寄りの人口は、富士川地区が八百七人（男―三百二十八、女四七九）、松野地区が三百七十七人（男―百五十七、女―二百二十）の合計千百八十四人で、昨年より五十九人増加しました。

なごやかな雰囲気の敬老会

◎90歳以上の高齢者（敬称略）
S・59・9・1現在

○女性

小林　たみ	97	小　山	斉藤　志ん
小林　きう	95	相生町	土橋　たね
斉藤　もと	94	上　町	塩坂　しん
滝　しげ	94	坂　下	天野　きみ
田村　なか	94	本通一	斉藤　りん
斉藤　志ん	94	富士見町	清水　その
土橋　たね	92	小　池	白井　たい
塩坂　しん	92	本通三	
天野　きみ	91	上　町	
斉藤　りん	91	本通一	
清水　その	91	富士見町	
白井　たい	91	清水町	

○男性

清　兼次郎	95	清水町	石川清太郎	91	新町本町
望月　春吉	92	上　町	宮沢　知誉	90	本通一
深沢　百蔵	92	清水町			
佐藤　宗男	91	木　島			
津田　秀治	91	新町本町			
石川清太郎	91	四十九町			
宮沢　知誉	90	本通一			

情報伝達訓練を中心に 広域防災訓練を実施

いつ起こるかわからない「東海大地震」にそなえ、9月1日(土)国・県・町、保・幼稚園、小・中学校や十五の民間事業所等が参加して、広域防災訓練が行われました。

町では情報伝達訓練を中心に行い、約千人が参加した各事業所では、実情にそくした出火防止、消火、救急救護、情報伝達の受理等の訓練を、また、国道一号線の富士川橋西端から駅前間においては、蒲原警察署が警戒宣言発令時における低速走行訓練を行いました。

11月11日(日)は、各自主防災組織を中心とした「地域防災訓練」が実施されます。いざという時にそなえみなさん積極的に参加してください。

警戒宣言発令をファックスで受ける担当職員

＝地震ひと口メモ＝ とっさのときの安全地帯

家の中で突然、大きな地震に襲われた時、自分の身の安全を守れるよう心掛けよう。それにはふだんから家具の転倒防止をしたり、安全な空間を作っておくことがまず大切です。それにいざという時どこに身を寄せるかを考え、家族で話し合っておくとよいことです。

とっさの際身を隠す場所は机の下、倒れる心配のない丈夫な家具のそば、大きな部屋より小さな部屋。便所や風呂場は柱が多いだけ、他の部屋より安全です。ただし、火災など地震後の災害を考え、こうした部屋から脱出できる出入り口の確保も必要です。

わだい

木島区投げ松明が盛大に

8月16日(木)午後7時30分から木島区河川敷グランドで、お盆の年中行事「木島区投げ松明」が、区民や見学者約八百人が参加して盛大に行われました。

この投げ松明は、富士川の川供養のために毎年同区で行われてきたもので、今年は、町教育委員会の民俗年中行事振興事業の指定を受けて実施されました。

当日は、早朝から区民総出で、藤づるや竹をつかい直径一㍍のもじりをつくり孟宗竹と桧をつなぎあわせた柱（約十四及び十二㍍）の先にそれぞれ取り付け河原に立てました。

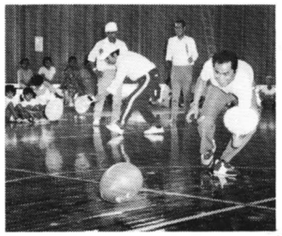
夕暮れになると、各家庭でつくられた松明を持った子どもたちや大勢の見物人が集まり、持ち寄った松明に火をつけて回転させながら柱の先のもじりをめざして投げ始めました。夜空に飛び交う松明の光景は壮観で、もじりの近くに松明がいくたびに歓声がおきていました。投げ始めてから約一時間後には一本目に、また、二本目には約一時間三十分後に、見事点火されました。

当日準備に参加した人は「昔は、小・中学生・青年と責任分担し三本立てました。材料を用意する時いろいろとおこられましたが、今では良い思い出となっています。この行事が絶えることのないよう協力し、いつまでも続けていきたい」と話していました。

協力しあい支柱を立てる区民

市川さんが郡身障福祉会で表彰される

市川良子さん(48)（本通一）


風船ようまく飛んでくれ！

庵原郡身体障害者福祉会（渡辺政志会長）の総会及びスポーツ大会が、9月2日(日)蒲原町勤労者体育館で行われました。

総会では、長年に亘り地区役員として活躍された市川良子さんが表彰を受けました。

また、スポーツ大会では、玉入れやスプーン競走など十五種目に熱戦を展開し、各種目で優秀な成績をおさめた富士川町チームが見事優勝しました。

一本のせっとうのために 約三百万円の修繕費が！

庵原郡のゴミ焼却処理の拠点として、昭和55年4月から操業を開始した富士川クリーンセンターのゴミ破砕機の刃が、心ない人によって焼えるゴミと一緒に出された〝石刀(せっとう)〟のために折れ、一時、使用できませんでした。

このため、二台で一日約二十五トンのゴミを処理していたものが半減してしまい、また、約三百万円の修繕費がかかり大変迷惑しました。

みなさん、ゴミを出す時は、必ず焼えるゴミと焼えないゴミは別けて、また、決められた日に出してください。

犯人のせっとうと折れた破砕機の刃

8月の交通事故 富士川身延線・国一の事故多発

8月町内では人身事故3件(6)、物損事故4件(1)、合計7件(7)の交通事故が発生し、4人が一週間から3カ月の怪我をしました。

〔（　）は昨年〕

これらの事故のうち、人身事故2件は富士川身延線で、また、物損事故3件は国道一号線で発生しました。事故原因は、わき見、後方不確認、追越違反などです。

9月21日から30日の10日間「秋の全国交通安全運動」が、老人の交通事故をなくそう、自転車利用車の交通マナーを高めよう、暴走運転をなくそうを重点目標に行われます。運転者のみなさん、思いやりとゆずりあいの気持を持って運転してください。

気がねなく遊ばせる場所が欲しい

新町　佐野りよ子さん(35)

富士川町に嫁いで、この町には公園が少ないことに残念に思いました。幸い私が子育ての時には、近くのお寺で遊ばせていただきましたが――常々身近な公園が欲しいと思っていました。子育てをしていく上で、誰に気がねなく遊ばせる場所が欲しい。そこへ行けば友だちに会えたり、遊べたりして、仲間意識が芽ばえ、大勢の中での自分を幼い時から身につけていく。母親同志、幼児たちのコミニュケーションの場として。

立派な公園でなくてもよいのです。少しの遊具と広場があれば。どの町内にもそんな場があったらいいですね。

今の子どもたちは、同学年の子とは遊ぶけれど、昔のように年齢を越えた遊びがない。現在、それを望むことは無理かもしれませんが、大人の働きかけによって機会を作らねばならないと思います。幼い時から年齢を越え町内の子どもたちと接していれば、戸惑わずに縦のつながりが深まるのではないでしょうか。大切な幼児にこそ培われていくものだと思います。

施設を整えるだけで子どもたちは育つわけではありませんが、今の子どもたちは忙しすぎる。子ども会より稽古ごとを優先する子が多い中、考えていかねばならないことだと思います。

現在は車優先で、バイパスの建設に力を入れています。マイカー族にとってありがたいことです。

ラッシュ時、ランドセルを背おい、友と何やら語りながら笑みをうかべ、照りつける太陽とともに歩いている情景が目にうつります。

よその子、うちの子の子の枠を外し接することができたら、地域の子どもたちをより良く育てていけるのではないでしょうか。

遊歩道のある町

木島　望月　忠さん(49)

草むらの虫の声もしげくなり、いつの間にか、さわやかさを感ずる秋となりました。

先日、通学路の点検に参加し、木島地区はバス通学で、現在は特別問題はない様に思われます。しかし、大自然に囲まれているのにバスで直行とはもったいないような気がします。

われわれの頃は、吉津橋で小休止し、棚上のあけびをわれ先にほうばり、あまい匂いとともに腹ごしらえし、帰宅してからの遊びの話に夢中になり、自然に急ぎ早やになった昔を、ふと思い出しなつかしみました。

子どもは自然の中で育っていきます。自然は人間に潤いを持たせ、四季には美しい花を咲かせ、また、落葉などは喜びやわびしさなど情操を豊かにしてくれます。

ぜひ、町内全域に遊歩道を通し、どこまでも安心して利用できる道の建設を望みたいと思います。

文化の香る町

小池　出雲美樹さん(42)

人が馬車馬のように働く時代は終りを告げ、潤いを求め個性的な生き方を求める時代になっているといわれますが、私の生活は相変らず忙しいのが現実です。

没個性と、集団志向の働き蜂、夢をみるには少し頭が固すぎるかなと思いつつ、精一杯胸をふくらませてみました。

山を切り開くことは、その麓に住む人の生活環境をも変える

10月のテーマ
秋の夜長の過し方　あなたは何を？

佐野富子さん(30)
(南町一)

寝苦しいあの夏の夜がまるでうそのように、秋の夜長に虫の音が、快く聞こえます。

好きなコーヒーと好きな音楽を聞いて、時折り話す人がいれば時の過ぎるのも忘れてしまいそうです。なんていうことが、数年前にあったことを思い出します。

秋は、私の一番好きな季節です。何となく心が落ち着いてほっとする季節なのです。

現在、私には、四歳と五歳のわんぱく盛りの息子たちがいます。毎日元気に働き回っています。世話をやくのはもちろんのこと、喧嘩の仲裁や時には一緒になって遊んだりして、一日があっという間に過ぎてしまいます。でも、そんな子どもたちが寝静まる頃、私にもほっとする時間がきます。

ことになりますし、川の上流を変化させると、その下流に住む多くの人々に影響を与えます。今や私たちは、自分だけ、自分の身辺のことだけを考えていたのでは暮していけません。自然を守ることと同様に人間同志のかかわり合いも大切にしたいですね。

私たちの日常生活は大変便利になりました。しかし、もう一方でこの便利さ、早さを果てしなく追い求める生活には少し疲れてきたようです。ですから将来は日常生活の中にゆとりを求めるようになるでしょう。「ゆとりのある生活」とは、生活の中に文化の香りのすることの様に思えます。芸術や芸能といったライフワークを通じて町の人々の絆が強まると、若い人や老いた人の意識の違いも無くなると思います。

郷土を象徴するような、文化が育つ環境作りに力を注いで欲しいですね。

新しい文化遺産の復興を！

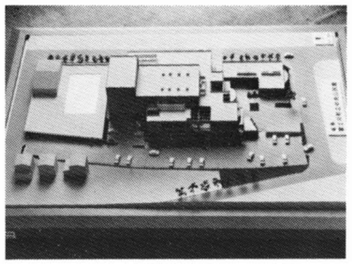
新町本町　大嶽正孝さん(49)

私たちの町、富士川町は文化水準の高い町というのが私の漠然とした印象である。

戦後、富士川一中が全国十校のモデルスクールに選ばれたり、いち早く図書館が設立されたり、文化協会を中心にさまざまな文化運動が興ったりしたためであろう。あの時代の熱気にくらべると、この10年ほど、ややマンネリ化の傾向が見られるように思う。

富士川町を特徴づけるものは何といっても富士川である。水枯れした現在の富士川から、かつて帆かけ船の往来した富士川の清流あふれる情景は、もうもどらないものだろうか。富士山をバックにした富士川の流れと土手の老松を町の文化遺産として、末永く守っていきたい。

そうした美しい自然を舞台とし、来年秋の中央公民館完成をきっかけに新しい文化運動の復興を願ってやまない。


昭和60年10月完成予定の中央公民館

わたしたちの富士川をこんな町にしたい

富士見町　清水さつきさん(28)

『わが町、富士川町』と、私が呼ぶようになってから早いもので、五年の歳月が過ぎようとしています。

右も左もわからないこの土地に来て一番嬉しかったことは、父と母のやさしい心づかいと周りの人たちとの暖かい心のふれあいでした。やること全てが初めての体験で、ただ、まごまごするばかりの私でしたが、そんな心の大きな支えとなったのは、自分の周囲の人たちとの一つ一つの会話であり、小さな心と心のふれあいでした。都会では失いかけている一番大事なこのことが、私たちの毎日の生活の中で、どれだけ大きな比重を占めているか、身をもって知らされた思いがしました。

日常生活のこんなささいなこの積み重ねがやがては大きな輪となり、そして、誰もが住みよいと感じるような『わが町富士川』になっていったら……と思います。

近代的なゆとりある町に

清水町　久保田和治さん(36)

町をとりまく交通網は、新幹線富士駅が開業され、東名高速道路には富士川インターが開通し、それぞれ整備拡張されたバイパスが結ばれ、東へ、西へ、北へとスムースに流れる。そんな便利の良さで富士川地区の商工業が近代産業に変化しながら発展することだろう。住宅地として、人口の増加の著しい松野地区も、その恩恵を受けて増々近辺で働く人々のやすらぎの地となるのでは……。

しかし、立派な器ができても中味が整備されなければ、本当に人間の住む町とはいえないだろう。老若男女が集う緑いっぱいの公園があり、だれにも気がねなく遊べる広場があり、みんなで語れる会場がある。環境に大いに左右される人間ゆえ、人が町を変え、また、町が人々を変えていく、そんな繰り返しが、人間性豊かな町づくりにつながるのではないだろうか。

限られたスペースの中で、生産活動をしながらゆとりある憩いの場所としたいものです。

家計簿付けから始まり、ゆっくり新聞を読み、一日の出来事を振り返ってみたり、その日によってすることはさまざまです。でも、何より心が落ち着くのです。

さて今日は、最近すっかりご無沙汰している友人に近況報告をかねて、手紙を書いてみましょう。そして、明日こそは、読みかけの本を読んでしまいたい……と。こんな具合に、秋の夜長には次々としたいことがありそうです。

すばらしい秋の夜長……あなたはどのように過ごしますか？

投稿者へ

◎10月のテーマ
　秋の夜長の過し方
　　あなたは何を？
◎字数
　400字づめ原稿用紙一枚以内
◎締切日　10月8日(月)まで
◎投稿先・問合せ先
　富士川町役場総務課
　岩渕121番地
◎注意事項
　匿名者の原稿は掲載しませんから、必ず住所・氏名・年齢を記して、締切り日までに投稿してください。

ママさん記者が取材中

「辛夷学級」

夏休みもきょう一日となった8月31日(金)、私たち広報モニターは、「辛夷学級」の代表者植松勝子さん（舟山町）と同学級の専任講師の望月八代さん（舟山町）をお招きし、学級の主旨や活動などについてお話をうかがいました。

はじめに同学級の名前の由来は、「一向きに蕾並びて辛夷かな」（立女）の俳句から、北国に春をはっきりと告げる花辛夷のように、学級も心を一向きに豊かな香り高い生活人を目ざして、楽しく勉びたいということでつけられたそうです。

この学級は、かつて婦人団体などで活動してきた人たちの、純然たる教養学習の場がほしいという声に、植松さんが中心となり、望月さん(前県婦連会長)の協力によって、昭和56年4月に発足しました。教養学習とクラブ活動（お茶、生け花、手芸、俳句（今年から独立し別のグループとなる））を中心に、三十五人から四十人の会員で、年十回の集まりを持ち、楽しく有意義に学習を進めています。

年間のプログラムは、年度始めに運営委員が三～五回集まりテーマを決めています。過去のプログラムを拝見させていただくと、魅力ある内容で一杯でした。その内容の一部を紹介いたします。

一年目（昭和56年）……テーマは「今を生きる婦人」国際感覚的教養を身につけ、ウイットある仲間づくりをめざす。女性を中心に古代からの、特に家族関係はどうなっているかということで、女性史を学習。

四年目の今年は――今までの総集編としてプログラムが立てられ、テーマは「家族とはパートIII」です。それぞれがいきいきと生きる社会の中の個人、または、家族の中の個人としてを学習しています。

女性は家族の中にいると視点をまちがえやすい、だからこそ学習をして次の時代を背負う子どもを育てなければならないと強調されました。

お二人に接していると、お若く、前向きの姿勢で、はたして私たちモニターが、お二人の年齢になった時、そうなれるかしらとつぶやきあいました。

最後になりましたが、参加を希望される人は、年度始めに公募しますので、お気軽に参加してください。

（広報モニター常盤孝子）

植松学級主任・望月専任講師さんにインタビューする広報モニター

▼社会教育（地域学習）の課題▲

地域の力の再生を

最近、地域がなくなったといわれています。

地域性、住む人の地域意識、地域の教育力、いずれもかってのそれに比べれば、弱々しいものになってしまっていることはたしかです。

よくいわれる職場と住居の分離、核家族化などがその大きな原因であろうと思うのですが、他にもあると思います。

それは、住む人の地域に対する意識の低下だろうと思います。

こんな話があります。ある人が一念発起、早起して、家の前のそうじをしたのです。すると、向いのおやじさんに、「何だ、自分の家の前だけ掃いて。」とイヤ味をいわれました。次の朝、向いの家の前もきれいにはいておくと、「バカ、俺の仕事をなくして。」としかられました。どうしたらよいのかわからないので、たずねると、「真中より一メートル、互いに相手側に入ってはけばいい。そうすれば、手のとどかない所がいつもきれいでいい。」と教えてくれたという。

地域性を考える時、多くのものを示唆してくれる例といえるでしょう。

自分の家の中や家の前だけをきれいにすることの多いのが昨今であるわけですが、こうした風潮はますます地域の特質を失ない、地域の力を弱めてしまうのではないでしょうか。

このことは、地域の子どもは地域で教育するという尊い先達が築きあげてきた地域の教育力をも失なうことにつながるのではないかということを恐れます。

隣の子、他人の子を叱るのは勇気ではありません。思いやりの心であるはずです。子どものあるいは地域の将来を想う人の強い、切なる心の表われだと思うのです。

今は、そういうご時勢だとあきらめてしまう前に、少しでも、地域の力を再生し、再構築しようとする努力をしなくてはならない時だと思うのです。

ふるさと探訪

石仏巡礼(十)

赤岩　一葉庵跡の石仏

古谿荘（野間別荘）をつくった田中光顕伯の離邸が岩渕、八坂神社の南側にあった。山狭を巧みに利用し梅園を主とした静かなたたずまいであった。更に本邸の水源をここに求め、石造りの貯水池は尾花が池と称していた。

この離邸にいずこから求め移されたものか、数体の石仏が所を得て飾られ現在も残されている。水源の取水口の堰堤の上に建てられている阿弥陀如来の立像は、蓮華の台座の上に総高1.0メートルの浮彫像。その温容は西方極楽浄土の教主として信仰の的であり、上品下生印（来迎印）を結ぶ弥陀は人々の強い希求から生まれたものである。承応三年(1652)の造立と思われる。本像は施主大嶋宗右衛門によっておそらく両親の供養のために造立されたもので、いずれかの寺の墓所あたりから田中伯がゆずり受けて来たものと思われる。光背は破損され、左手は欠損、右手の下生印を結ぶ親指と人さし指も欠損されてはいるが、全容は見事な出来ばえである。

また、下流の流れの傍に千手観音と地蔵菩薩と思われる二体の石仏があるが、双方とも男女の戒名が刻されていることから前記如来同様いずこから求められたものと思われる。寛文十年と延宝三年の記銘がある。

芦川　守正

まちの指定文化財(十)

薬師如来座像

彫刻　薬師如来座像
昭和54年12月5日指定
指定番号　第4号
所有者　光福山新豊院
形状等
像高92.4cm

本像は新豊院の末寺で、岩渕の南吉野にあった光雲寺の本尊といわれ、明治初年、光雲寺が廃寺されるとともに新豊院に併合され、移されたものです。

形状は、螺髪粒状白毫相を現わし、耳朶環はなく、彫眼され、衲衣は左肩をおおって右肩に少しかかり、左手は膝上に掌を上げ、右手はまげて掌を前に立て、右手を外にしてあぐらをかいています。

現状は、頭部、三道、胸部、背面、衲衣など全面にわたって彫り直されているので、いつ頃の作か見当がつけにくいですが、伝統的な木寄せなどから考えて、鎌倉時代か、あるいはもう少し前の作と考えられます。

本像は、町内に残されている仏像の中では古いものに属しますので、町にとって大変貴重な像です。

戸籍の窓

おめでた

S・59・8・1～8・31届出分　（敬称略）

区名	氏名	保護者	続柄
相生町	宇田浩輔	祐三	長男
上町	望月栄裕	広司	二男
新町	吉田城治	日出人	長男
〃	遠藤沙記子	哲弘	長女
〃	滝口裕太郎	良孝	長男
宮町	美奈	成樹	二女
東町二	鮎川美和	照夫	二女
富士見町	清水忠良	芳光	四男
かぎあな	望月瞳	勝	二女
富士松野	松尾めぐみ	芳起	二女
大北町	大津松行	正善	二男
侭下町	神戸裕臣	陽臣	長男

かなしみ

区名	氏名	年齢
木島	芦川せん	七四
旭町	望月きく	八七
小池	佐藤弐巳	七四
清水町	小池安治	八一
大北町	宇佐美晴雄	七七
侭下町	小川諭	八四

一里塚

わが家の裏を流れる富士川は時折り流れの筋を変え、岩肌をも変えることがある。砂浜も風雨により段壁を作ったり、なだらかな丘になったり変化きわまらない。この見失われていた砂浜を遊びの場として利用し始めた。

夏休みのある日、子どもが父親を引っぱり出し釣竿、バケツを片手に出かけた。獲物はハヤの稚魚二匹であったが「すごい発見をしたよ」と目を丸くして家の中にとび込んできた。何事かと尋ねると「アリジゴクが砂浜にいっぱいある」という。図鑑では見たことがあるが実際は知らない。後日、子どもの案内で見に行くと草かげに漏斗状の穴が大小様々数えきれない程目に入った。獲物を捕えている様子も見られた。自分の発見したものを前にし得意顔のわが子が頼もしく思えた。身近な場所、少しの時間を利用した親子の触れ合いはいいものですね。

子どもは自然環境に直接触れる中で物への感動を覚え、愛着を深め創造力を培っていきます。

地域は子供にとって大事な遊びの空間と自然環境を与えてくれます。思いきり動き回れる空間と親しめる自然をいつまでも多く残していきたいものです。

美好

町への寄付金

S・59・9・1～9・3　（敬称略）

三十万円　国保会計へ　小沢　弘（本通一）

十万円　社会福祉事業費へ　続　義幸（本通一）

善意銀行へ寄託

S・59・8・6～9・1

八千九百六十六円　清水銀行

五千円　静岡銀行富士川支店

一万円　小池　徳市（清水町）

六百六十二円　滝　とき（東町一）

一千三百四十円　八幡町三十坂子ども会

五百円　かぎあな福寿会

お母さんの〝知恵袋〟

夏バテ回復はのんびりと

9月とはいえまだ暑い日が続きます。昼寝をするなどして体を休めたいものです。それと同時に、朝夕の涼しい時間に定期的に運動をしてみましょう。散歩などもいかがですか。しだいに体調が整い疲れの回復が早まります。水っぽいものばかり食べていると胃液の分泌が鈍くなり、胃の働きが衰え水分が汗となって出てしまう際に塩分までとってしまいます。冷たい口あたりのよい嗜好品をとる習慣から牛乳などに切りかえ、良質蛋白質を含む卵・肉・魚・大豆製品、ビタミンミネラルを多く含む緑黄野菜や繊維を多く。ビタミンCが熱を加えても非常に安定している芋類を多くとるようにしましょう。魚はサンマをはじめサバ・イワシなど、どれも油がのって味のよい時期です。きのこ類や果物などで秋の気配を出すようにしましょう。食欲も徐々に回復しはじめます。

秋の味覚を盛りこんだ献立で家族の健康作りに心がけましょう。そして、運動も忘れずに。

俳句会

〈文協俳句会〉

宮町　増井　冬木

ラジオ体操の終の印や露涼し
宿題の粘土細工も秋の貌

大北町　天野　たま

無縁仏乗りし流燈岸に寄り
一人居に夏負けすなと遺影より

南町一　法月　幸子

森林浴延齢草の白に触れ
前山に濡れて月出ずかたつむり

南町二　影島　智子

殻象に姑のあり日のふとよぎる
われ立てばまつすぐに来る青田風

旭町　笠井みち子

無造作に髪形かへて涼しかり
青栗や海を遠見に村十戸

南町　田辺つぎ子

朝戸繰る雲のちぎれに秋近し

清水町　宇佐美裕子

ゆく夏や隠岐の港の郵便船

南町　上野みつ子

稲株の殖へて土用の風走る

南町二　上野君江

峰雲にむかいて畝を切りいたり

南町二　望月　洋子